



## 文部科学省 発達障がいの可能性のある児童生徒への支援事業報告会

2月1日(月)に文部科学省において、各県から約150名の参加のもと、標記の報告会が開催されました。鳥取県は、鳥取市の「ひらがな音読支援(鳥取大学方式)」と倉吉市の「多層指導モデルMIMを取り入れたひらがな読み支援」について発表しました。

文部科学省からは、本市の取組システムについて、次のような評価をいただきました。

### ◎客観データと主観データを融合させた取組である

アセスメントツールとして鳥取大学方式やMIMを取り入れ、PDCAサイクルを生かした取組となっている。

### ◎保護者への理解啓発も積極的に行っている

学校だけでなく保護者も意識して取り組むよう進めている。

### ◎全小学校で取り組んでいることがすばらしい!

県・市がリーダーシップをとり、管理職がそれに応えている。学年が進んでからつまづきに対応するのは難しいが、予防として取り組むことに意義がある。各県でも生かしてほしい。

### △第3段階の支援が必要な児童への支援

1年間の取組で十分な成果が見られなかった児童への次の支援(2年時、3年時以降)をどのようにするか、各校で検討が必要である。

## ひらがな音読支援成果報告会

2月5日(金)、教育センターと鳥取大学が共同で、市内全小学校の先生方に、今年度の「ひらがな音読支援」の成果について報告しました。国立成育医療研究センター小枝達也先生をお招きし、来年度の実施に向けても話し合い、校内体制で取り組むことの重要性を確認しました。音読支援(1年生)、語彙指導(2年生)、MIMを取り入れた支援(1年生)の3つについて、鳥取大学赤尾依子先生が分析されたデータから、先生方の取組の様子が伝わってきました。各学校、担任の先生方に心より感謝いたします。今後、さらに取組を充実させるために、各校で内容を伝達していただきますようお願いいたします。



今年度は、希望校7校で「多層指導モデルMIMを取り入れた支援」を実施しました。音読確認の結果(1~3回)について、7校は他校に比べ、音読支援者の割合が2~3パーセント少ないというデータが得られました。特殊音節の読みの強化が有効であると分かりました。

宮ノ下小の日々の  
細やかな実践が参  
考になりました!



実践発表「多層指導モデルMIMを取り入れた支援」  
宮ノ下小学校 大谷 佳津江 先生

## 研修企画係



# 学び合い、高め合う教職員集団をめざして

昨年12月21日に3つの中央教育審議会答申（※）が取りまとめられ、その実現に向けて、1月25日に「次世代の学校・地域」創生プランが策定されました。

教員の資質能力の向上については、「教員は学校で育つ」ものであることを踏まえ、チームやメンター方式を取り入れ、OJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実が示されています。各学校で、今年度の取組について振り返り、来年度へ向けた方策を検討する中で、「教職員が互いに学び合い、高め合う」という視点が意識されることを期待しています。

### ★全教職員が同じベクトルで

→取組を「しぼりこむ」、みんなで確認し合いながら「やりきる」

### ★チームで取り組む

→動きやすい組織で、主任まかせにせず、中堅と若手教員が適材適所の役割分担

### ★互いの声かけで温かい職場づくり

→忙しい中にあっても、たった一言の、報・連・相、助言、励まし・評価・感謝の言葉を大切に

（※）中央教育審議会答申

- ・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」
- ・「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」
- ・「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」

## 「きなんせ！ English World」で子どもたちを笑顔に



今年度、外国語指導助手（ALT）等が学校に出かけて行うキャラバンを、11小学校（その他4中学校にも午後訪問）で実施し、約3,000名の子どもたちが英語でコミュニケーションする喜びを体験しました。

土曜日を実施するEnglish Worldは、2月27日が今年度最終回です。新たに小学校4年生を対象としますので、参加の呼びかけについてよろしくお願いします。

### 1月27日キャラバン(末恒小)



行ってみたい国についての英会話に挑戦

### 2月3日キャラバン(遷喬小)



チームで伝えた英単語の絵がうまく描けました